



主張

平成時代最終年、そして新たな時代へ

～新しい時代は「心」の時代～

松本賢治

明けましておめでとうございます。平成三十年は、六月の大阪府北部を震源とする地震、七月豪雨（西日本豪雨）、夏場の酷暑や連続で発生した大型台風、九月の北海道胆振東部地震など自然災害が多い年でした。被災された皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。学校は様々な災害から多くの教訓を学ぶことができませんが、防災教育や減災はその地域に応じた工夫の仕方があることを改めて学びました。過去の東日本大震災や熊本地震なども含め、一日も早い復旧・復興を願い、自分は何ができるかを常に考えながら、日々、教育に勤しんでいるところです。

さて、全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」の「全日本中学校長会からの10の提言」は、全国全ての中学校において、一斉に取り組む努力目標であることが記されています。学校長は、「確かな学力」や「道徳教育」「学校と家庭・地域社会」などの現状と課題を把握・検証し、改善の旗振り役として実践されていることでしょう。改善のためには、教育環境の整備、とりわけ計画的な人材の育成を図ることは、いつの時代でも重要です。ルソーの名言「教育は人なり」を思い出します。人材育成に直結してくる言葉です。

P・ドラッカー、松下幸之助、渋沢栄一：物心がついた私の中学校時代、私は父の書棚



から十分に理解できなかった内容の書籍を手にとつて読んでいたことを思い出します。今は、教育学者、哲学者、伊藤忠兵衛、稲盛和夫：社会人として人として「心」の大切さを伝えてもらえ、私自身、学ぶことができる先達が随分と増えました。

数年前、退職して三〇年以上になる父から、「現役当時、OJTに力を入れていた。」との話を聞きました。流石にその言葉が出てきたときには、少々驚かされました。それとともに、まだまだ教育界での人材育成の枠組みが確立途上であることを強く感じました。学校という組織において、人材育成の手法が定着しにくい職場なのか、教員の自己啓発と管理職の部下指導にゆだねられていたのかなど、振り返ってみても、簡単に結論づけることができません。人材の育成はますます大きな課題であることにまちがいありません。限られた時間の中、仕事上の経験を積ませることの他に、メンター制度、目標管理制度、人事評価制度などを有効活用させながら、優秀な人材を育てていくのは私たちの大きな使命であると再認識できます。また、教員意識の改革には、まず、教員自身の振り返りが特に大切ですが、そのために、都道府県・政令指定都市教育委員会で作成されている教員育成指標を、校長との面談の中で活用することも有効ではないでしょうか。

平成時代が終わります。「グローバル化の進展」「雇用環境の変化」など、世界の社会構造が大きく変化し、予測困難な新しい時代がやってきています。今を生きる子供たちは、宇宙船地球号の中で未来の国際社会を力強く生き抜いていきます。そのために私たちは人を育てるといふ尊い営みに、いっそうの心血を注がなければなりません。人材育成の基盤となるものが道徳だと考えると、まさに新しい時代は「心」の時代であります。

(全日中副会長・徳島市富田中学校長)